

平成 19 年度障害者自立支援調査研究プロジェクト 事業実施報告概要

事業名	重度精神障害者の地域生活を効果的に支援するための調査研究
事業目的	<p>精神障害者の特性として、疾病と傷害の共存などに起因する対人関係の不得手や、活動の持続性に関するマイナス側面などがある。これらによる生活上の障害は、障害程度区分では評価しきれない地域生活上の困難を生じさせている。</p> <p>こうした状況を改善し、障害程度区分では見えにくい精神障害者の状態像をGAFや障害年金の等級などの相関関係から明らかにすることで、精神障害者にとっての重度の要因と状態像とは何かを検証することで、地域生活支援を効果的に進める諸条件を見いだそうとするものである。</p>
事業概要	<p>障害程度区分では見えにくい精神障害者の重度とは何かを、障害特性との関係で明らかに（定義づけ）するため、社会復帰施設ないし障害福祉サービス事業所を利用する精神障害者の①属性、②初発、③初診、④障害手帳の有無、⑤GAF、⑥職員目から見た障害程度などの調査票、及び障害特性として当てはまる状態に係わる①症状の有無、②声かけの必要性、③気分変動の有無、④自己管理、⑤協調性、⑥病識などに係わる調査票、加えて重度包括支援を担っているか等の施設票をセットで、郵送による調査を実施した。</p> <p>調査対象は新体系事業及び全国の社会復帰施設</p>
事業実施結果及び効果	<p>新体系事業所への移行はなされていないが、重度の精神障害者を支援していると考えている全国の社会復帰施設 130 施設から 1602 名の調査票の回答を得た。</p> <p>その結果、GAF による状態像は 60～70 が中心で、介護支援の必要性が少ない者であるが、職員が重度と考える対象者は、金銭の自己管理や病識、協調性などの面で課題があり、日常生活における声かけなどが欠かせないものであった。これらは障害年金手帳を所持し 2 級に該当する者が大半を占めた。すなわち GAF による状態像は良好だが、生活上の困難（生活重度）は重いことが明らかになった。</p> <p>したがって重度精神障害者の支援は、見守りを含めた支援策（支援システム・支援施策）が必要なことなどが課題であることがわかった。</p>
事業主体	<p>〒113-0034 東京都文京区湯島 3-14-8 加田湯島ビル 5 階 社会福祉法人 全国精神障害者社会復帰施設協会 TEL03-5812-0830 E-mail cava@zenseishakyo.or.jp</p>